

連載 (供覧) いはひまつりのみち

宗教は人を殺し、祭祀は人を生かす  
世界平和のための祭祀を復興させる

## 第二十三回 祭祀の下の平等

南出喜久治 (令和7年8月1日記す)

ちちははと とほつおやから すみめおや やほよろづへの くにからのみち  
(父母と遠つ祖先から皇御祖八百万神への国幹の道)

宗教は、すべての差別の根源となつてきました。他宗教を差別することは勿論のこと、これを契機とする人種、民族、文化、身分、職業、障害者、LGBTQ などなどです。

宗教は、建前上は偽善者のやうに立派なことを言ひますが、信者同士を平等に扱ふことはなく、他宗教の信者に対しては当然のやうに露骨に差別するのが宗教です。

LGBTQ の問題が騒がれてゐるのは、これまでの差別があつたことによるものですが、このことは、哺乳類である人類の本能が「劣化」し、人類が「老化」してゐることの証です。

これは、遺伝子のエラーによつて生ずるものであり、これは哺乳類であれば織り込み済みの現象ですが、哺乳類として人類が維持保存されるためには、男は男らしく、女は女らしくといふことによつて生殖能力を高めて強い子どもを産み育てることが必要になります。

男は、強くなれば優しくなります。女は、優しくなれば美しくなります。

これが人類の美德 (本能適合性) なのです。

人類は哺乳類ですから、男女の「区別」があり、それ自体は「差別」ではありません。むしろ、徹底した区別がなされることによつて本能の劣化を防ぐことになります。この区別が曖昧になり、子を産まない男女の夫婦、子を産むことができない人の組み合わせは、人類にとっては障害者と同様の保護が必要ですが、本能を劣化させ男女の区別を妨げる方向での過保護を絶対にしてはならないのです。LGBTQ の人は、人類の本質を理解して事故の立ち位置を認識しなければならないのです。

これまでは、LGBTQ のことについて、もつと大らかな側面がありましたが、いまではギスギスして喧嘩腰で喧しく議論されてきたのは、人類の劣化、本能の劣化と無関係ではありません。

そして、この人類の劣化、本能の劣化は、様々な場面で明らかになつてきたのです。

まづ、人類は母乳で子どもを育てられない。子どもは殆どが牛の乳で育てられてゐます。狼少年といふのは、狼の乳で育てられた少年のことですが、現代の子どもは、殆どが牛少

年少女です。そして、育児、教育には手間とお金がかかるとして、子どもを生み育てることをせず、子どもの代用として犬、猫などのペットをわが子のやうに育てる風潮は、出産・育児離れの傾向を加速してゐるもので、人類の劣化、本能の劣化の現象と認識できるものです。

しかも、その殆どの方は、親よりも教団よりもペットを大事にするといふ味気ない人生を送つてゐます。これらは、すべて宗教が齎した現象なのです。

ともあれ、祭祀は、誰であつても、これを実践する者同士に一切の差別がないのです。これが祭祀の下の平等といふことです。そして、人類が宗教の宿痾から解放されて祭祀に回帰すれば、人類の劣化、本能の劣化を防ぐことができるのです。

このことが、「本能祭祀」と「理性宗教」の違い、すなはち、人類の本能を基底とする現実の祭祀と、理性で編み出された虚構の宗教との違いなのです。